

基板実装工程の在庫管理・生産性向上 に関する実態調査調査結果

2025年2月実施



2025年3月吉日

目次

1

調査概要

2

調査結果内容

3

まとめ

調査概要

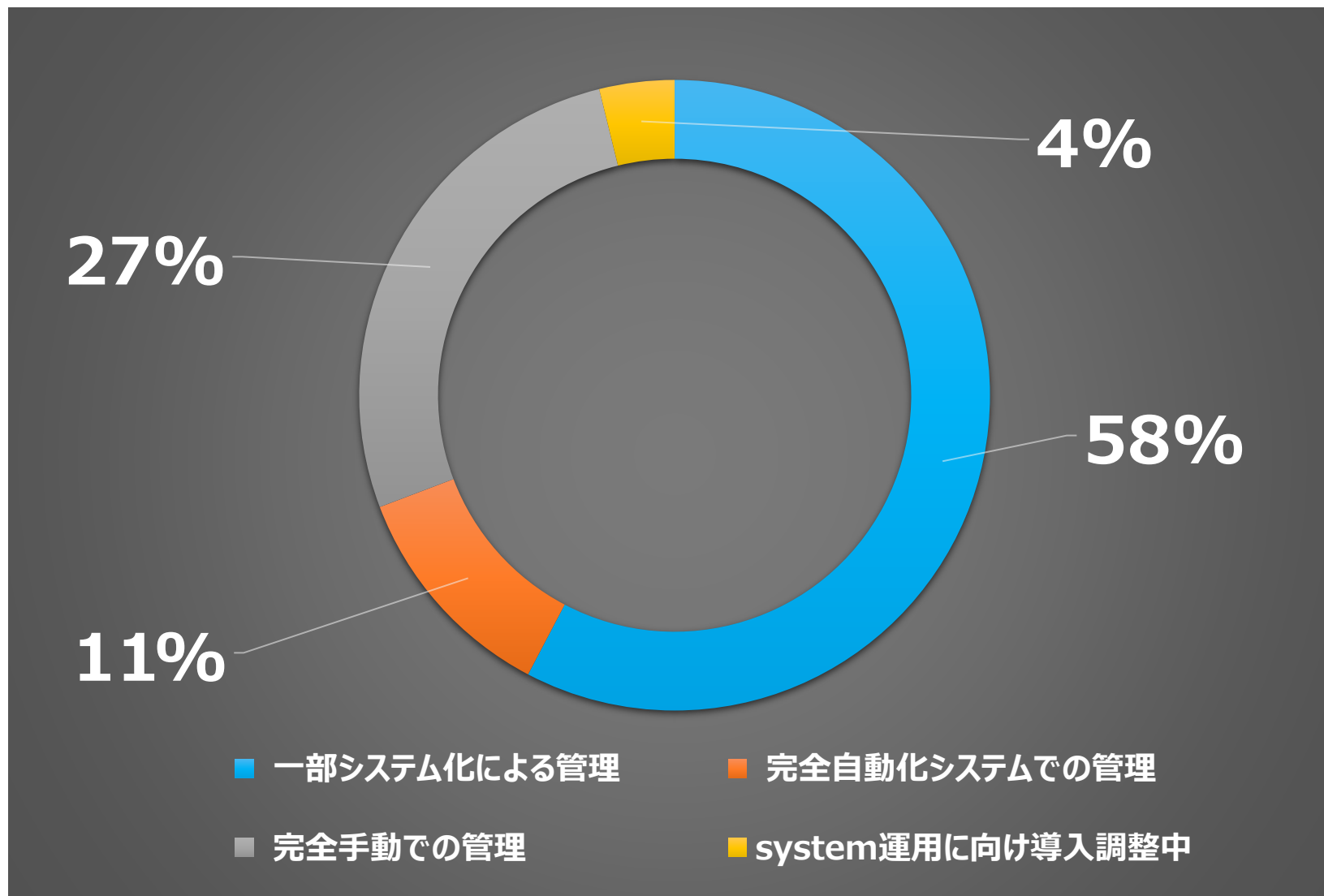


■ 調査概要

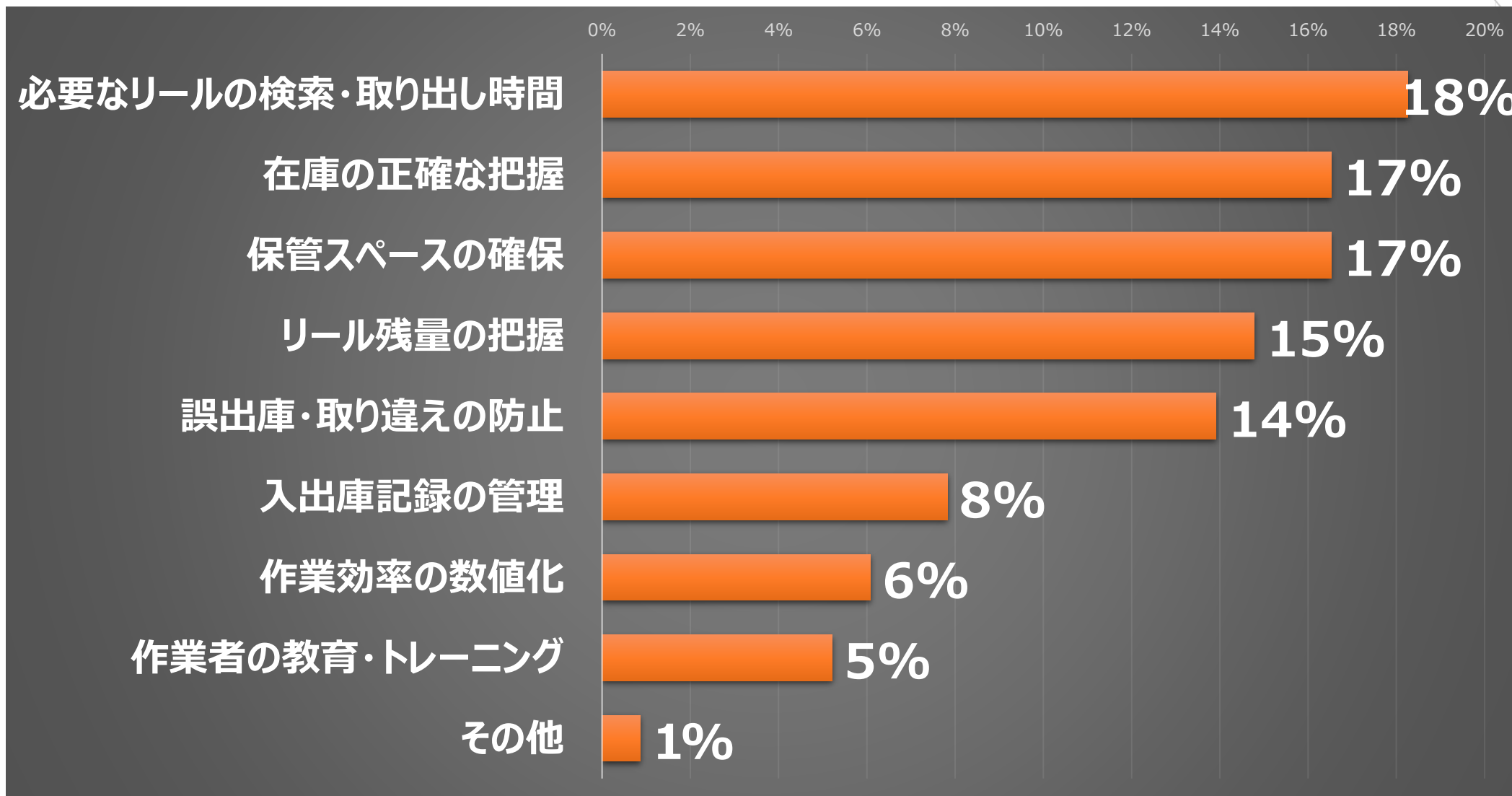
- 調査対象：当社顧客基盤群の基板実装工程従事者
- 調査期間：2025年2月13日～2月25日
- 調査目的：基板実装工程における在庫管理と生産性向上に関する現状と課題の把握

調査結果内容

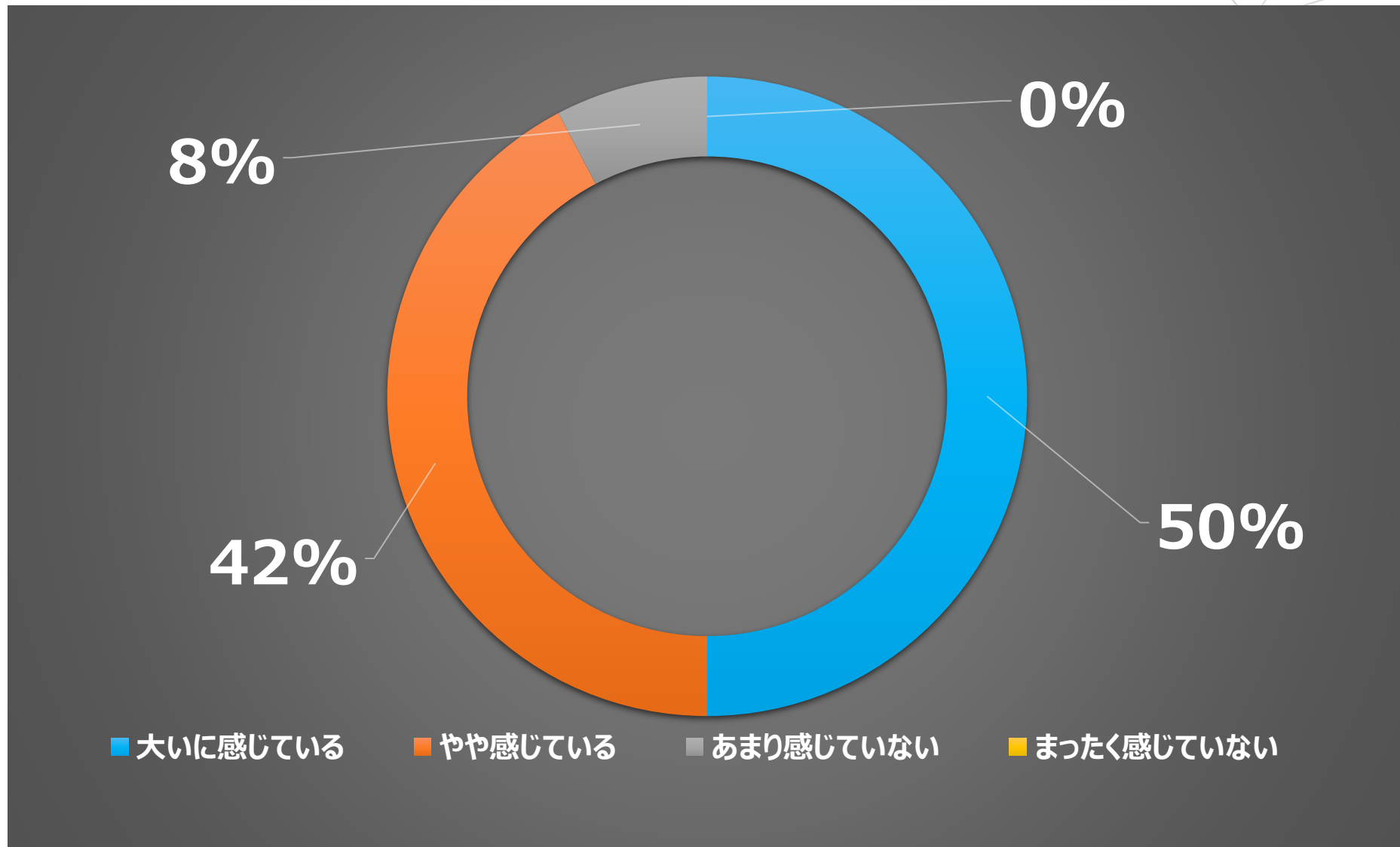
■ Q1.実装工程での電子部品リール管理方法について 現状の管理方法について教えてください。



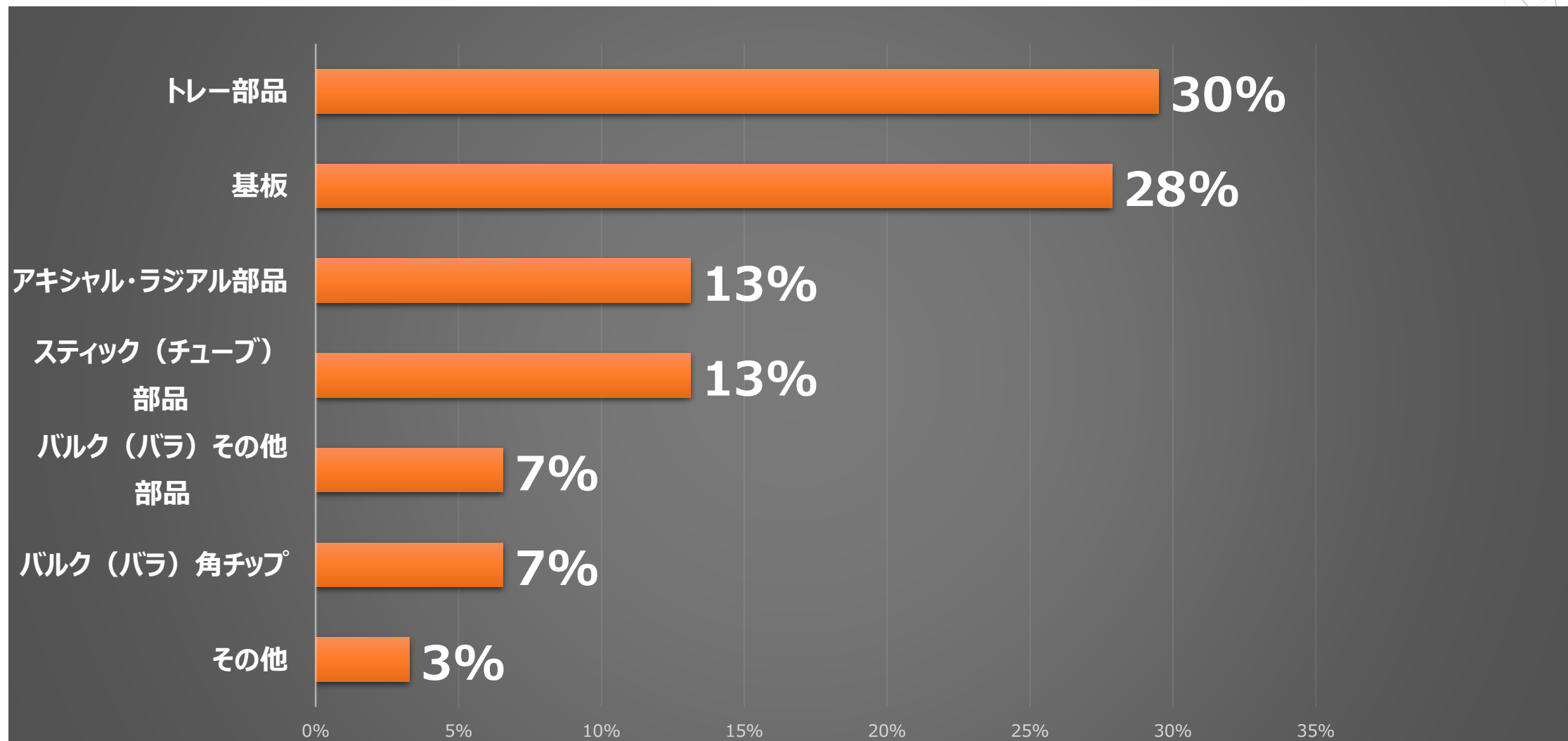
Q2.電子部品リールの在庫管理において、課題に感じていらっしゃることを教えてください。(複数回答可)



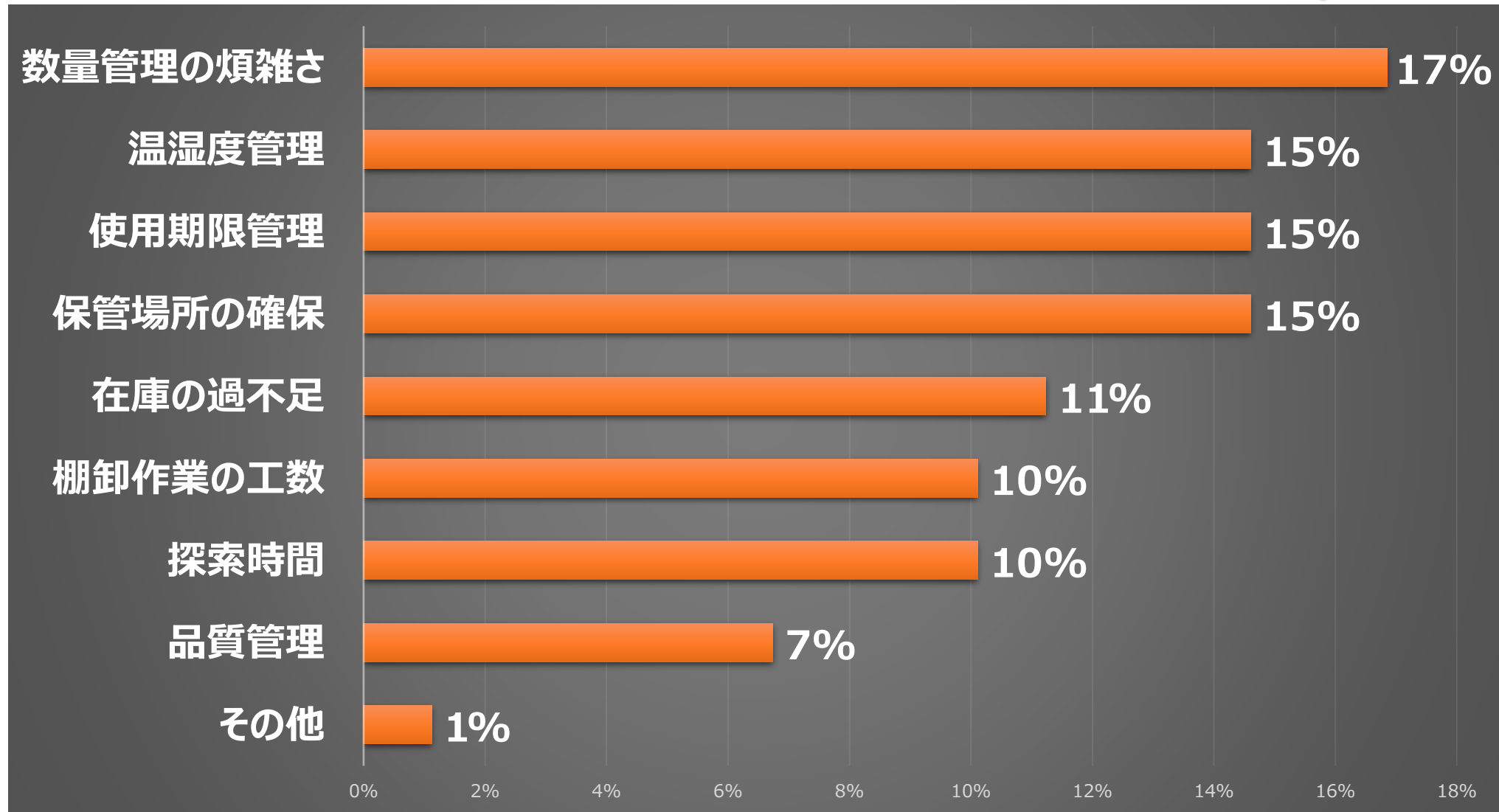
Q3. その他部品の在庫管理についてお伺いします。電子部品リール以外の部品の在庫管理に課題を感じていますか？



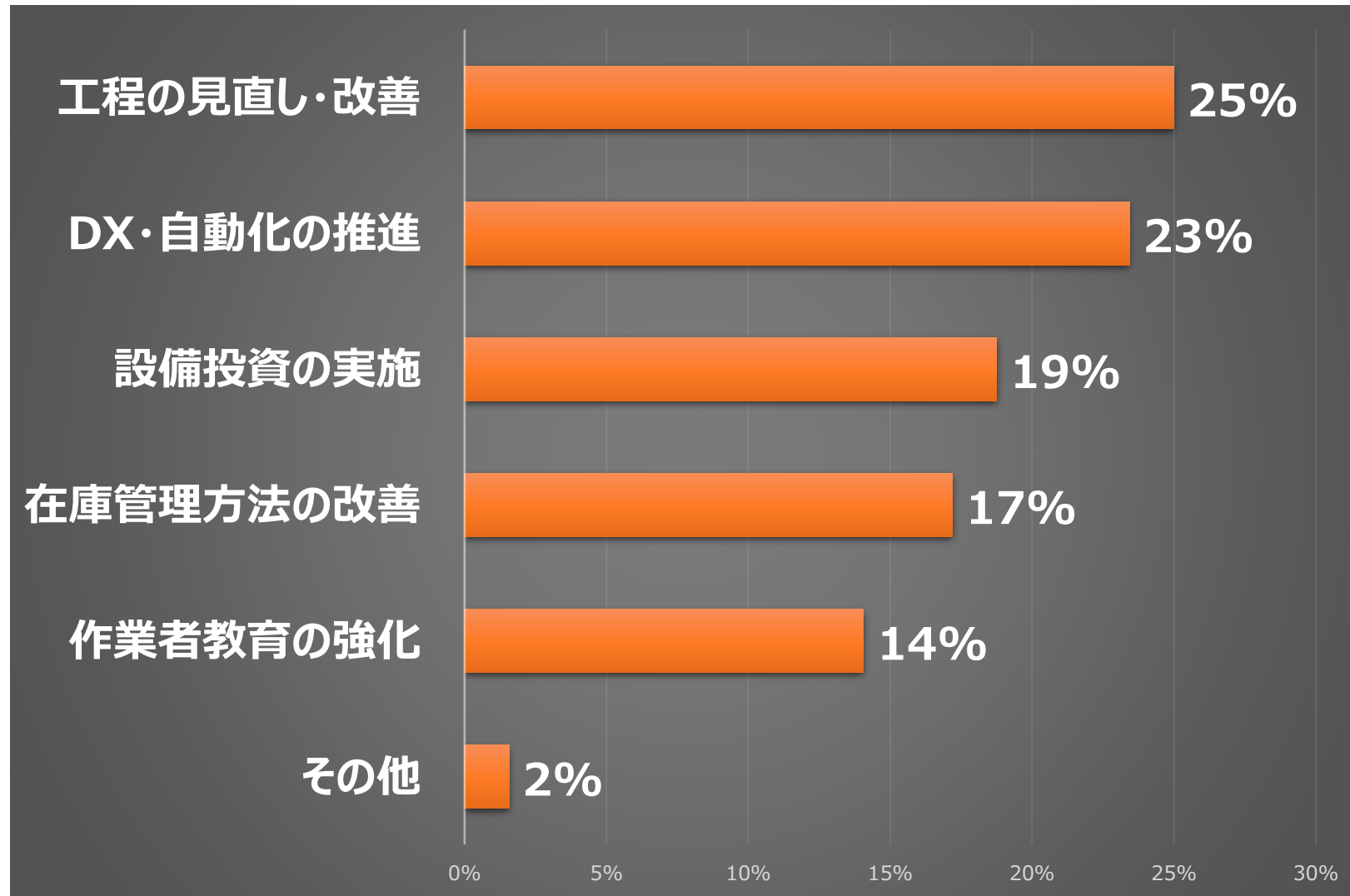
■ Q4.『大いに感じている』『やや感じている』とお答えの方にお伺いします。具体的にどのような部品の管理に課題を感じていますか？



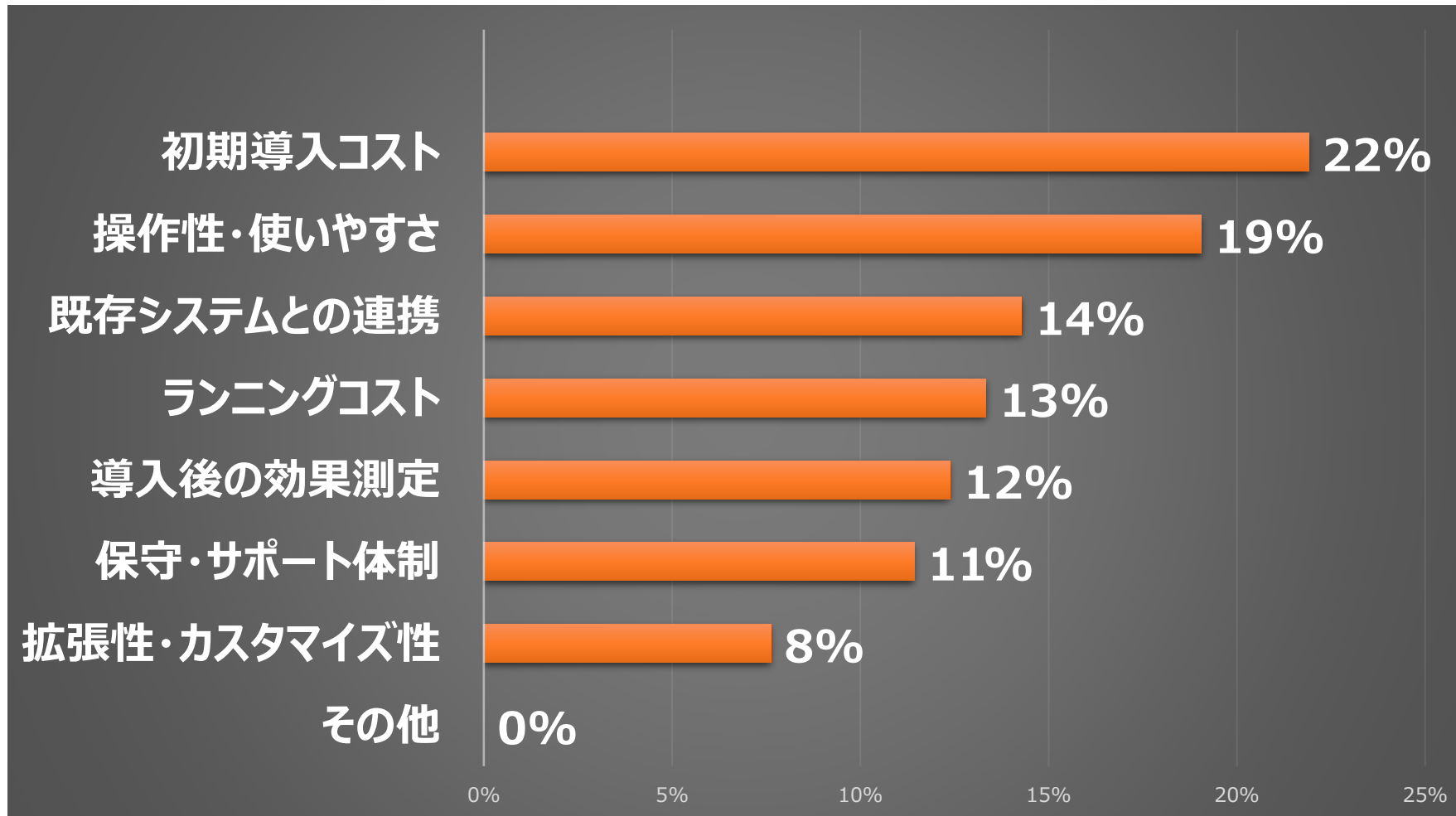
■ Q5.それらの部品について、具体的にどのような課題を感じていますか？（複数選択可）



■ Q6.生産性向上に向け、取り組まれていることについて教えてください。



■ Q7.管理システム導入検討時に重視するポイントについて教えてください。(複数回答可)



まとめ

まとめ

1. 業界全体の現状認識

現在の基板実装工程における在庫管理は、完全な自動化には至っておらず、過渡期にあることが明確になりました。回答企業の約6割が「一部システム化による管理」を採用しており、完全自動化システムの導入は11.5%に留まっています。この状況は、段階的なDX推進の必要性を示唆しています。

2. 主要な課題の構造的分析

2.1 オペレーション面の課題

- 検索・取り出し時間の非効率性
- 保管スペースの制約
- 在庫精度の維持困難 これらの課題は相互に関連しており、一つの解決が他の改善にも波及する可能性が高いことが示唆されています。

2.2 管理面の課題

- 多種多様な部品の統合的管理の困難さ
- トレー部品や基板など、形状の異なる部品の混在
- 温湿度管理や使用期限管理などの品質要件への対応 これらは、単純な自動化だけでは解決できない、複合的な管理体制の構築が必要な課題として浮かび上がっています。

3. 今後の展望と提言

段階的なDX推進の重要性

調査結果から、一足飛びの完全自動化ではなく、現場の実情に合わせた段階的なDX推進が望ましいことが示唆されています。特に以下の点に注目する必要があります：

- 既存システムとの連携を重視した導入計画
- 操作性・使いやすさを重視したユーザーインターフェース
- 投資対効果を明確にした段階的な展開

■ 結論

本調査結果から、基板実装工程の在庫管理・生産性向上には、技術的な解決策だけでなく、人材育成や運用体制の整備を含めた総合的なアプローチが必要であることが明らかになりました。

特に注目すべき点として、回答企業の約9割が何らかの課題を抱えており、その解決に向けてDX推進や工程改善に積極的な姿勢を示していることが挙げられます。この結果は、業界全体として変革期にあることを示唆しており、各社の状況に応じた最適な解決策の選択が今後の競争力を左右する重要な要素となることが予想されます。

今後は、本調査で明らかになった課題と各社のニーズを踏まえ、段階的かつ実効性のある改善施策の提案と実施支援が求められます。

End of Document.